

韓国輸出主義蓄積体制の構造変動

1964 年-2018 年

SHIN Jaesol

輸出への高い依存度は韓国資本主義の構造的な特徴として挙げられてきた。韓国資本主義の輸出依存度は高度成長期である 1960 年代半ば以降から 1980 年代半ばまで、そして 97 年危機以降から 2011 年に至る時期に渡って急速に上昇してきた。しかし近年、世界的な貿易停滞と中国の構造変化を背景に韓国資本主義には輸出依存度の低下が見られる。本稿は「2010 年代に輸出依存度の低下として現れた世界経済の変化が、従来の「輸出主義蓄積体制」にもたらした変化は何か」という問いを立て、その問いに答えるために、様々な一次資料や二次文献を輸出主義という問題関

心から検討し、韓国の輸出主義の構造変動を整理した。

具体的に本稿は輸出依存度を基準とし、韓国の輸出主義体制の展開を四つの時期に分け、輸出依存度の上昇と低下をもたらした地域的な変化を明らかにし、またそれが内部的構造とどう相互作用したのかを究明した。その結果は次のようである。

輸出主義体制の第一期は輸出の外延的拡張を追求する「外延的輸出主義体制」であった。この体制が成立した背景には「東アジア三角貿易体制」があり、その条件は国民国家の相対的自律性が保証される国家間秩序と東アジアの冷戦体制であった。朴正熙政権はこの条件に答え、「東アジア三角貿易体制」に対応する調整役割を果たした。この時期の国内的条件は蓄積体制としての「借入・輸出経済」と、その作動に対応するレギュレーション様式としての「開発独裁」であり、この二つの総体を「開発独裁発展様式」と呼ぶ。

輸出主義体制の第二期は調整期/移行期としての「韓国的フォーディズム体制」であった。この時期は外延的輸出主義の地域的な条件と国内的条件のいずれも解体または危機に陥り、新たな要素が出現する。まず、地域的な条件であった三角貿易体制、冷戦体制、ブレトンウッズ体制の 3 者がすべて解体されるか、あるいは危機に陥る。内的条件においても、一方では開放と民主化、自由化によって圧縮成長と開発独裁が解体され、他方では、国家後退の空白の中で財閥権力の全面化、労働者階級の浮上という新しい要素が出現する。マクロ経済的メカニズム上では、貿易黒字と脱債務

化に伴い借入輸出経済の基盤が消える一方、内需循環が相対的に強化される。そして、これを基盤に財閥の新しい戦略が登場する。輸出市場と内需市場の矛盾、発展主義的属性と新自由主義的属性の矛盾、民主主義と財閥権力の矛盾を孕む時期であったこの時期は、内的要因と外的要因の結合によって触発された 97 年通貨危機で大々的な変化を迎えることになる。

輸出主義体制の第三期は「内包的輸出主義体制」であった。外延的輸出主義の時期の特徴が経常収支の赤字であったとすれば、この時期は経常収支の黒字が安定的に維持され、海外向けの資本循環によって輸出需要を喚起する。国内資本が輸出の条件を自ら創出するという意味で、この時期の資本循環は「内包的」な性格を持つ。この時期には「海外直接投資を通じた資本輸出」と「低負債-低投資-高収益体制」という特徴が見られた。新たな投資レジームの不在、金融化の影響、システム全般の不安定性の増大によって投資・消費の停滞や低成長傾向が現れる一方、輸出だけが突出的に成長した。輸出循環と内需循環の構造的な断絶によって、不平等の増加と経済の二重化を生む一方、内需の不振がさらに深まった。

輸出主義体制の第四期は内包的輸出主義を可能にした地域的条件が弱化・転換する調整期といえる。2008 年の金融危機の以降金融のグローバル化にはブレーキがかかった。続いて、世界経済の長期低迷が現れる一方、生産のグローバル化も停滞しており、韓国の輸出を牽引していた中国もリバランシングに取り組んでいる。ギリシャ危機やイギリスのブレグジット、トランプ政権の登場や米中貿易戦争など、様々な場所でグローバル化の暗雲が垂れ込めている。日韓間の貿易紛争も、もはや経済と政治の分離および自由貿易という価値が優先的に考慮されていないことを示している。

2011 年の以降韓国の生産性の輸出偏向的な上昇傾向は、以前とは明らかに違う様子を見せている。しかし、これは内需の成長が主導した 1980 年代末とは異なり、輸出の不振が生んだ結果である。その一方では、輸出の低下傾向とは反対に、輸入がさらに大きく低下して経常収支の黒字が増えている。ともに海外直接投資も増加しているが、2000 年代のように輸出の上昇を伴ってはいない。輸出と内需の構造的な断絶は続き、生産と利潤の統制権も依然としての財閥に独占されている。本時期では弱まる内需と輸出の危機に答え、内需を復興させるための政府の努力が現れた。代表的なものが朴槿恵(パク・クネ)政権の信用拡張政策と文在寅(ムン・ジェイン)政権の所得主導成長であった。しかし、前者の場合、対内的不安定性を深め、後者も当初から公言したことを達成できなかった。今現在の「長期 2010 年代」が 1990 年代のように『歴史的な再編の正しい遂行に失敗し、新しい支配形態の「発明」にも失敗したブルジョア支配・政治の失敗』(Woojin Yang, 1996)に帰結するのか、それとも新しい対案が成熟する土台になるのか、絶体絶命の問いが投げかけられている。

本研究の意義は韓国資本主義の蓄積体制、中でも輸出主義の構造変動という問題意識を持って、日本の学界には紹介されていない韓国語の文献を整理する一方、関連事例を集め、長い歴史的の流れ上に配置したことにある。